



<input type="checkbox"/>	社会人
<input type="checkbox"/>	学生
<input type="checkbox"/>	高専
<input checked="" type="checkbox"/>	高体連
<input type="checkbox"/>	中体連
<input type="checkbox"/>	小学生
<input type="checkbox"/>	県協会

<input checked="" type="checkbox"/>	全国大会
<input type="checkbox"/>	ブロック大会
<input type="checkbox"/>	都道府県大会
<input type="checkbox"/>	地区大会

<input type="checkbox"/>	男子
<input checked="" type="checkbox"/>	女子

試合番号	菊池-女10
------	--------

年月日	2019年8月4日(日)
大会名	令和元年度全国高等学校総合体育大会ハンドボール競技大会

公式記録用紙

A	県立高松商業高等学校										大分高等学校						B	
都道府県	熊本県		市町村		菊池市		会場		菊池市総合体育館						回戦		1回戦	
前半	A	B	最終結果	A	B	第1延長	A	B	第2延長	A	B	7m追加	A	B				
7m得点/総数	2/2		チームタイムアウト			チームタイムアウト			B		7m得点/総数		2/2					
			1	2	後半	3				1	2	後半	3					
			2235	0924							1409							

No.	県立高松商業高等学校	G	W	2'	2'	D	DR	No.	大分高等学校	G	W	2'	2'	D	DR
1	戸阪 菜菜							1	廣田 美月						
2	瀧淵 那月	2	1					2	清水 愛果	2					
3	瀧 愛							3	本田 早留香						
4	古川 綾乃							4	後藤 真子	1					
5 C	竹内 聖空	6	1					5	三浦 那月	2					
6	矢野 愛吏		1					6	高橋 舞	2	1				
7	堀 愛梨	3						7	竹ノ下 あかり						
8	福家 和歩	2						8 C	後藤 ほたる	6					
9	廣瀬 美香							9	高橋 唯	5					
10	関 真心							10	萩尾 ほのか	5					
11	大谷 華永							11	山崎 晶	2					
12	塩入 ひろの							12	幡東 妃美希						
13	小杉 暖羽							13	堤 千葉留						
14	堀切 怜菜							14	山口 映						
役員A	河合 哲							役員A	瀧元 泰昭						
役員B	藤目 愛美							役員B	東恩納 健						
役員C								役員C	阿南 凧都						
役員D								役員D							

A	河合 哲	チーム役員A署名	瀧元 泰昭	B
---	------	----------	-------	---

レフェリー	安田 寛	永春 文織	安田 寛	永春 文織
TD	篠原 理	貞島 早苗	篠原 理	貞島 早苗
MO				

得点(G),警告(W),退場(2),失格(D),報告書付き失格(DR)特記事項に報告書として内容を記入

ハンドボール No.64

令和元年度全国高等学校総合体育大会
高松宮記念杯第70回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

戦評

開催日	2019年 8月 4日 日曜
会場	菊池市総合体育館
種別	女子
回戦	1回戦

スコア	チーム名	総得点	前半	総得点	チーム名
		高松商業	13	7-13	25
			後半		
			6-12		
	第1延長		第2延長		7MC
	—		—		—
	—		—		—

戦評	前半
	<p>大分のスローオフでスタート。大分は8番後藤などの鋭いカットインやポストプレーを中心に点を重ねていく。高松商業もカットインやミドルシュートで大分ディフェンスに対し攻め込んでいく。両チームとも緩急をうまく使いこなしながら、ゲームを展開していく中で、セットオフenseでの得点力で点差がじわじわと開いた。そこには、大分1番廣田の好セーブが大きく影響している。流れをつかみたい高松商業は5-9の4点差で22:35にタイムアウトを請求し、その後はWポストでの攻めにシフトチェンジした。その結果シュートチャンスが生まれ、徐々にリズムをつかむ。しかし、相手のミスを上手く速攻への得点へ生かし、大分が前半7-13の6点差リードで前半は終了した。</p>
後半	
<p>最初に点を動かしたのは、高松商業7番堀のカットインだった。しかし、その後すぐに大分は両バックプレイヤー8番、9番が点を重ね、大分がリズムを作った。セットオフenseではWポストを中心とした展開の中、高松商業のディフェンスラインを下げる攻撃を続け、低くなったところを9番高橋、8番後藤がミドルを積極的に決め続けた。また、高松商業もしつこいディフェンスからの速攻を狙い、堅い守りから速攻を仕掛けるが点につながらず流れをつかめなかったが、最後まで攻め続ける姿勢が得点へとつながっていった。しかし、お疲れ様です。大分のバランスの取れた攻防により13-25で大分が勝利をおさめた。</p>	

記入者 安田 妙子